

平成29年1月18日(水)

老球の細道299号

残念！「Bリーグ」オールスターゲーム

会津バスケットボール協会 室井 富仁

小学生の頃だったろうか。現在の県立博物館の場所に市営野球場があった。そこで日本プロレスの試合があった。会津で初めてのプロレス興業だった。私の年代から上の人たちは覚えているだろうが、ジャイアント馬場、遠藤幸吉、吉村道明、芳の里、豊登など当時テレビで一世を風靡していた錚々たるプロレスラーが会津にやって来たのである。

その試合運営に父が関係していたので、私はリングサイドの席で観戦することができた。試合前からレスラーにサインをもらったり練習を見学したりして本番の試合をワクワクして待っていた。いよいよ試合が始まったら、コーナーにある鉄柱に頭をぶつける技やニードロップと言われる仰向けになっている相手にジャンプして膝から当てる技が実際に当たっていない。寸止めだったり、衝撃を微妙にコントロールして敵味方が納得ずくで技をかけあっていたのである。

それまでプロレスというものは真剣勝負で殴り合ったり、蹴ったり、空手チョップをやっていると信じていた。父にプロレスはインチキなのではないかと話したら、そうではなくて最初からプロレスはショーなのだと教えられた。それからというものプロレス熱は一気に覚めて野球少年に集中するようになった。

先日バスケットボールの統一プロリーグ「B LEAGUE」の初のオールスター戦が東京の代々木第一体育館を満員にして行われた。テレビのNHK・BSでも放映されたが、これを見た私は小学生の頃に見たプロレスの試合を思い出してしまった。残念だった。

ゲームはノーガードのシュートの打ち合い。入ればまだ許せるが、ほとんど入らない。入ったとしてもディフェンスされないシュートなど小学生でも入る。凄い身体能力だというある日本人選手がダンクシュートをした。もちろん相手チームはディフェンスをしない。ディフェンスなしのダンクシュートなど今時の高校生でもやれる。私が見たいのはディフェンスのコンタクトを受けながらダンクに持っていく破壊力である。NBA選手などは皆平気でやっているが日本人選手はあまりいない。身長の問題ではないと思う

解説の節政氏がのたまっていたが、オールスター戦はディフェンスをしないで観客に派手なオフェンスプレイを見せるのが選手同士の暗黙の了解だそうである。つまりお互いに「ダミーディフェンス」でゲームをして楽しもうということらしい。そんなディフェンスは「ダミー！」と、本気になってディフェンスをする空気の読めないオールスター選手はいなかったらろうか。残念である。

オールスターゲームというのは、その競技のスーパースターたちが結集して、自分のスーパースタープレイを真剣勝負の中で発揮するゲームなのではないだろうか。ディフェンスをしないバスケットボールなんてありえない。真剣なディフェンスのもとでプレイされるスーパースタープレイを本物のファンは望む。素人ファン受けばかりを狙って、上っ面の偽バスケットボール勝負をやってもメッキはすぐにはがれてしまう。Bリーグの未来に不安が。

小学生の頃のプロレスを生で見た時あのがっかり感がよみがえり、1Qも終わらぬうちにテレビのチャンネルを変えてしまった。息子にはファンあつてのバスケットなんだから、オールスターなんてそんなものだからと諭されたが納得はできなかった。